●表紙のことば●

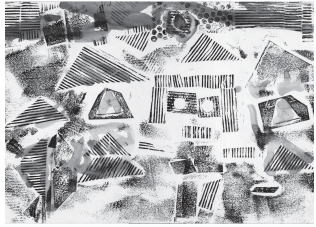
「おやまでけしきをみてるところ」

平野　絢美（ひらの　あみ）6歳

城北アソカ保育園（熊本教区）

様々な形や質感の紙を見立てながら構成して絵作りをし、それを版画として刷っています。絢美さんは、山に見える形の紙を画面の大半に貼り、その中心に、人に見える構成で紙を貼っています。刷り上がった版に後から絵の具で補足的に彩色しています。先生が「あみちゃん、ひとりなの？お友だちやママたちはいないの？」と聞いたところ「あみがね、お山みてるところ」と自分が表したかったことをしっかり答えてくれました。

幼児は見立てがとても上手です。大人はどうしても実物の形にとらわれすぎて、思い切った単純化が苦手ですが、幼児は逆に細かな形よりも「これは髪の毛」「これは目」といった意味づけの組み合わせによって自由に表現します。ですから、手先で描き出す描画活動よりも、こうした見立てによる画面構成の方が楽しめる場合も少なくないのです。絢美さんは、山に見立てた三角形の紙をたくさん画面に構成し壮大な風景を描き出しました。



大橋（おおはし）　功（いさお）

和歌山信愛大学